

平成19年度 岐阜県高等学校総合体育大会バスケットボール競技
 兼東海・全国高等学校総合体育大会岐阜県予選会
 最終日：平成19年6月3日(日)
 会場：関わかくさプラザ

男子の部

<審判>

決勝リーグ 岐阜農林 112 $\left[\begin{array}{l} 24-13 \\ 23-22 \\ 31-5 \\ 34-25 \end{array} \right] 65$ 斐太 大江裕之・角平和優
 (2勝) (2敗)

岐阜農林ハーフコートマンツーマン、斐太オールコート2-2-1ゾーンでスタートする。岐阜農林は⑨古田、⑭今井の高さを活かし、オフェンスリバウンドからシュートを決め、第1ピリオド11点のリードを奪う。斐太は⑭水谷の3点シュート、④杉山のシュートで得点をあげるが、相手の高さに阻まれ思うように得点を伸ばせない。第2ピリオドに入ると、岐阜農林はパスをうまくつなぎ⑪加藤、⑮下瀬が得点をあげる。しかし、斐太も⑭水谷の2本の3点シュートで勢いにのり、速攻から⑦島中がシュートを決める。第2ピリオドは互角の展開であったが、岐阜農林が12点のリードを保つ。

第3ピリオドに入ると、岐阜農林は高いディフェンスリバウンドから次々に速攻を決め着実に点差を広げる。第4ピリオドに入っても、岐阜農林⑩小椋、⑧二村のシュートが次々に決まり、最後は岐阜農林が112-65の大差で斐太を下し決勝リーグ2勝目をあげた。斐太も最後は④杉山、⑧富士本、⑩洞口が3点シュートを決めるが、相手の勢いを止めることはできなかった。(三浦広和)

決勝リーグ 岐阜総合 96 $\left[\begin{array}{l} 21-8 \\ 27-20 \\ 20-14 \\ 28-4 \end{array} \right] 46$ 岐南工 三浦 潔・棚橋英一
 (2勝) (2敗)

岐阜総合はオールコートマンツーマン、岐南工はハーフコートマンツーマンでスタートする。岐阜総合は⑬岡島のリバウンドシュート、⑤原のアシストから⑩田代のシュートと勢いに乗ってリズムをつかむ。第2ピリオドに入っても、岐阜総合は⑪寺井のジャンプシュート、⑧深尾の連続3点シュートなどでリードを広げ、前半は48-28と優位に立つ。岐南工はオフェンスのペースを遅くして、しっかりとしたパス回しから⑤多田のジャンプシュート、④高橋の3点シュートが決まるが、点差を縮めるには至らない。

第3ピリオドに入っても、岐阜総合は激しいディフェンスから相手のミスを誘って⑥上村、⑩田代らがシュートを決める。第4ピリオドには岐阜総合はベンチメンバーを全員出場させながら、次々と速攻を決めて96-46の大差で岐南工を下し、決勝リーグ2勝目をあげた。岐南工もディフェンスを2-1-2のゾーンに変え、④高橋、⑪武藤がシュートを決めるが、速さ、高さとも圧倒されてしまった。(村田竜一)

決勝リーグ 斐太 86 $\left[\begin{array}{l} 26-20 \\ 25-13 \\ 20-5 \\ 15-9 \end{array} \right] 47$ 岐南工 相宮俊郎・菅野 浩
 (1勝2敗) (3敗)

2敗同士ながら、東海大会出場をかけた一戦となったこの試合、両チームともハーフコートマンツーマンディフェンスでスタートする。斐太はタイトなディフェンスからインターセプトして、④杉山、⑮和田らがシュートを決め、第2ピリオドで26-20と一歩リードする。岐南工も、④高橋の第1ピリオドだけで3本の3点シュート含む16得点の活躍で、必死に食い下がる。

第2ピリオド、両チームともミスが目立つ中、斐太はスピードを生かしてアウトサイド、インサイドともバランスよく攻め、⑭水谷、⑮和田の活躍で51-33とリードを広げ、前半を折り返す。

第3ピリオドに入っても、斐太のペースは変わらず、④杉山の3点シュート、⑤高井、⑮和田のシュートでさらにリードを広げる。第4ピリオドに入っても攻撃の手を緩めず、斐太が86-47で勝利し、東海大会出場権を得た。岐南工も相手ディフェンスに苦しみながらも④高橋、⑥中山らがシュートを決めたが、相手の勢いを止めることができなかった。(土本 繁)

決勝リーグ	岐阜農林 (3勝)	95	$\begin{bmatrix} 20-14 \\ 30-11 \\ 22-14 \\ 23-24 \end{bmatrix}$	63	岐阜総合 (2勝1敗)	室谷伸治・増田博徳
-------	--------------	----	--	----	----------------	-----------

2勝同士の激突となり、全国総体の出場をかけての戦いとなった。岐阜農林は激しいディフェンスから⑫滝沢、⑮下瀬のシュートがよく決まり、第1ピリオドで20-14とリードを奪う。第2ピリオドに入っても、岐阜農林は⑨古田がゴール下を支配し、⑥木村、⑫滝沢らのシュートが次々に決まっていく。前半で岐阜農林が50-25と大きくリードを奪い、優位にゲームを運ぶ。岐阜総合はディフェンスリバウンドを取れないため、得意の速攻を出せず、ガード陣にもミスが続き攻撃が単発になる。

後半に入っても岐阜農林の勢いは衰えず、⑪加藤、⑫滝沢、⑥木村らの外角シュートがよく決まり、第3ピリオドで72-39とほぼ大勢を決する。最後まで攻撃の手を緩めず積極的に攻めた岐阜農林が、ベンチメンバーも活躍して、チーム一丸となって95-63で勝利し、5年ぶりの全国総体出場を勝ち取った。岐阜総合はゾーンプレスをしかけ、⑩田代、⑫長尾、⑦横道が積極的にシュートを狙ったが、反撃が遅すぎた。(岩永英夫)

女子の部

<審判>

決勝リーグ	岐阜女子 (2勝)	127	$\begin{bmatrix} 37-5 \\ 28-6 \\ 34-13 \\ 28-8 \end{bmatrix}$	32	岐阜総合 (2敗)	後藤慎二・宮崎泰彦
-------	--------------	-----	---	----	--------------	-----------

岐阜女子は2-2-1オールコートゾーンプレス。岐阜総合はハーフコートマンツーマンで始まる。第1ピリオド、岐阜女子は④伊藤のドライブ、3点シュート、⑦汪のポストプレー、⑥茅谷のジャンプシュート、3点シュートと内外角ともバランスよく攻め、次々に得点を重ねていく。対する岐阜総合は相手の激しいディフェンスに苦しみなかなかシュートに持ち込めない。第1ピリオドで岐阜女子は37-5と大量にリードを奪う。第2ピリオドに入っても岐阜女子は交代したベンチメンバーが活躍し、⑫上原、⑪徳、⑧靳らが次々にシュートを決めていく。岐阜総合は1-3-1のゾーンディフェンスに切り替え、⑥安田が3点シュートを決めるが、相手の勢いを止められない。前半で岐阜女子が65-11と大きく引き離し、優位にゲームを進める。

第3ピリオドに入っても、岐阜女子の勢いは衰えず、オールコートマンツーマンで激しくプレッシャーをかけ、相手のミスを誘っては⑪徳、⑫上原、⑰岡田らが得点を挙げる。第4ピリオドに入っても、岐阜女子は粘り強いリバウンドから⑨立花、⑱安江、⑰新井、⑩角島らがシュートを決め、127-32と大差をつけて岐阜総合を下し、決勝リーグ2勝目をあげた。岐阜総合もディフェンスを切り替えながら、粘り強い攻めをみせ、④嶋内、⑰下里、⑱田中がシュートを決めたものの、相手の力強いリバウンド、動きの速いディフェンスに本来の力を発揮することができなかった。(川島ゆかり)

決勝リーグ	県岐阜商 (1勝1敗)	74	$\begin{bmatrix} 14-22 \\ 20-12 \\ 19-17 \\ 21-16 \end{bmatrix}$	67	高山西 (1勝1敗)	小泉純子・長屋 貴
-------	----------------	----	--	----	---------------	-----------

両チームともハーフコートマンツーマンでスタートする。高山西は⑦畦地、⑨藤井のリバウンドから速攻を中心に攻め、⑰朝熊、⑥室谷らが得点をあげる。県岐阜商は⑥山北のインサイドプレーを中心に攻めるが思うように得点が伸びない。第1ピリオドは高山西が22-14とリードを奪う。第2ピリオドに入ると、両チームともゾーンディフェンスに変え、一進一退の展開となるが、県岐阜商の④小坂井、⑤梶野の速攻が立て続けに決まり、前半は34-34の同点で終わる。

第3ピリオド、県岐阜商は④小坂井の3点シュート、⑥山北のインサイドで攻めれば、高山西は⑥室谷が要所でジャンプシュートを決める。第3ピリオド終了で、53-51と県岐阜商が一步リードする。第4ピリオドに入って、県岐阜商は⑥山北のインサイドを軸に⑤梶野、⑩前田がシュートを決めて、10点のリードをつける。その後も④小坂井を中心に落ち着いてゲームを運び、県岐阜商が74-67で勝利を挙げた。高山西は⑦畦地が孤軍奮闘するが、追い上げきれなかった。(杉山博宣)

決勝リーグ	岐阜女子 (3勝)	102	$\begin{bmatrix} 28-12 \\ 31-10 \\ 21-14 \\ 22-19 \end{bmatrix}$	55	高山西 (1勝2敗)	松野瑞穂・赤石恵美子
-------	--------------	-----	--	----	---------------	------------

両チームともハーフコートマンツーマンでスタートする。岐阜女子は立ち上がりからディフェンスで激しくプレッシャーをかけ、スチールから速攻に出て、④伊藤、⑥茅谷らが次々に得点をあげる。その後も豊富な運動量からプレッシャーをかけ続け、④伊藤、⑤水谷がスチールからシュートを決め、第1ピリオドは岐阜女子が28-12とリードする。高山西も⑦畦地がインサイドでよくシュート決めるが、思うようには攻めきれない。第2ピリオドに入っても、岐阜女子はディフェンスを緩めず完全にゲームの主導権を握り、⑥茅谷の3点シュート、ジャンプシュート、⑦汪のポストプレー、④伊藤、⑤水谷のドライブインと攻め続け、前半で59-22と大きくリードする。

後半に入って、岐阜女子はベンチメンバーを次々に投入するが、変わらず厳しいディフェンスから速攻をしかけ、⑪徳、⑫上原、⑬岡田、⑭宮部らが得点をあげ、速さ、シュート力、ディフェンス力に優る岐阜女子が決勝リーグを3戦全勝で優勝を飾り、全国総体への出場権を得た。(田中昭博)

決勝リーグ	県岐阜商 (2勝1敗)	77	$\begin{bmatrix} 18-16 \\ 24-7 \\ 18-33 \\ 17-19 \end{bmatrix}$	75	岐阜総合 (3敗)	小牧秀則・山田祐治
-------	----------------	----	---	----	--------------	-----------

県岐阜商ハーフコートマンツーマン、岐阜総合1-3-1ゾーンディフェンスで始まる。開始直後、県岐阜商は2本の3点シュートを含めいきなり10-0とリードする。しかし、岐阜総合もディフェンスをマンツーマンに切り替え、粘り強く守り、⑪前田、⑤関谷の3点シュート、④嶋内のドライブインが決まり追い上げる。第1ピリオドは県岐阜商が18-16と一歩リードする。第2ピリオドに入ると、県岐阜商は堅いディフェンス、確実なリバウンドから次々と速攻が出て、⑤梶野、⑥山北のシュートが決まり、次第に点差を広げ、前半は県岐阜商が42-23と19点のリードを奪う。岐阜総合はオフェンスがうまくかみ合わず、第2ピリオドはわずか7得点に終わった。

第3ピリオドに入ると、ゲームの様相が反転し、岐阜総合はオールコートマンツーマンディフェンスに切り替え、激しい当たりから相手のターンオーバーを誘うと、⑪前田、⑥安田、⑤関谷の3点シュートがこのピリオドだけで6本決まり、一気に4点差まで詰める。

第4ピリオドに入り、県岐阜商がリバウンドからの速攻で⑦佐野、⑥山北が得点して点差を広げると、岐阜総合が⑪前田、⑥安田の活躍で追い上げ、残り30秒ついに岐阜総合は⑪前田の3点シュートで同点に追いつく。しかし、そこから県岐阜商⑦佐野が中央をドリブルで割り、レイアップシュートを決め、熱戦に終止符を打った。県岐阜商は77-75で決勝リーグ2勝目をあげ2位となった。(川上亮輔)